

## 応利山～津波戸山～両戒山 (周回コース)

【報告者】I丸

【日時】2020年4月6日 【天候】晴れ

【参加者】T橋・I丸

### 《コースタイム》

9:25 応利山登山口 → 10:10 応利山 → 10:40 来縄山 → 12:30 津波戸山 →

展望台(大休止) → 13:50 松尾山 → 15:10 両戒山 → 16:00 登山口 → 17:00 応利山登山口

### 《報告》

低山ハイイクの季節。宇佐市にある津波戸山(540m)辺りの低山を周回してきました。当初の目的だったUSA看板がある栗山は、時間不足で行けなかったのが残念です。

豊後高田市の来縄集落から応利山登山口駐車場に車を駐車する。ここもかなり眺めがいい展望だった。405段の階段横から小径を歩く登山道に入る。明確な登山道からすぐにテープも少なくなり分かりづらくなった。なので、高い方へ向かって登ってみた。展望のない応利山へ到着。次へと急ぐ。



松尾山。ここに堤が…

一旦下って、急登を登り上がると来縄山(くなわやま)に到着。ここも展望なし。しかし、天気が良いので明るく、あちらこちらの山桜が花弁を散らせて美しかった。ここから津波戸山までの尾根筋は、片側が急斜面なので外れることなく歩く事が出来た。

津波戸山も展望なし。展望台まで移動して大休止を取った。これから先の尾根筋の山を見ながら、

点々と咲いている山桜や宇佐市内を一望しながら、ゆっくりしてしまった。次の松尾山まで転げるような斜面を下り、狙い通りに池ん戸(堤)に出た。昭和初期頃まで使用されていた堤らしく、周りに水路の跡があった。昔の人が石を運んだ労力に感心した。

ここからは、テープの無いルートファインディングでの両戒山へのルートとなる。後にGPSログで分かったが、最初から下る尾根筋を右に間違っていた。地図・コンパス・高度計を駆使しながら進んだが、木々の間から目視で確認していたピークがそもそも間違っていたように思える。1人の時は、不安でついつい携帯のGPSを眺めるが、今回は読図で両戒山まで行ってみた。とても時間がかかってしまった。

そこからは、最短ルートで下山し、車道を4kmほど歩いて駐車場へ戻った。

最後の栗山は、カットする事になってしまった。だが、登



池ん戸(堤)



山歴 20 年、読図の難しさを思い知った。狭い領域の低山ハイクがとても広く感じる。ここはどこ?? と真剣に地図を見る時間。この地形って? と周りを見渡す時間。そんな時間が持てる幸せを感じる今日この頃でした。

(翌日に福岡県が新型コロナウイルスの影響で緊急事態宣言を発令)

